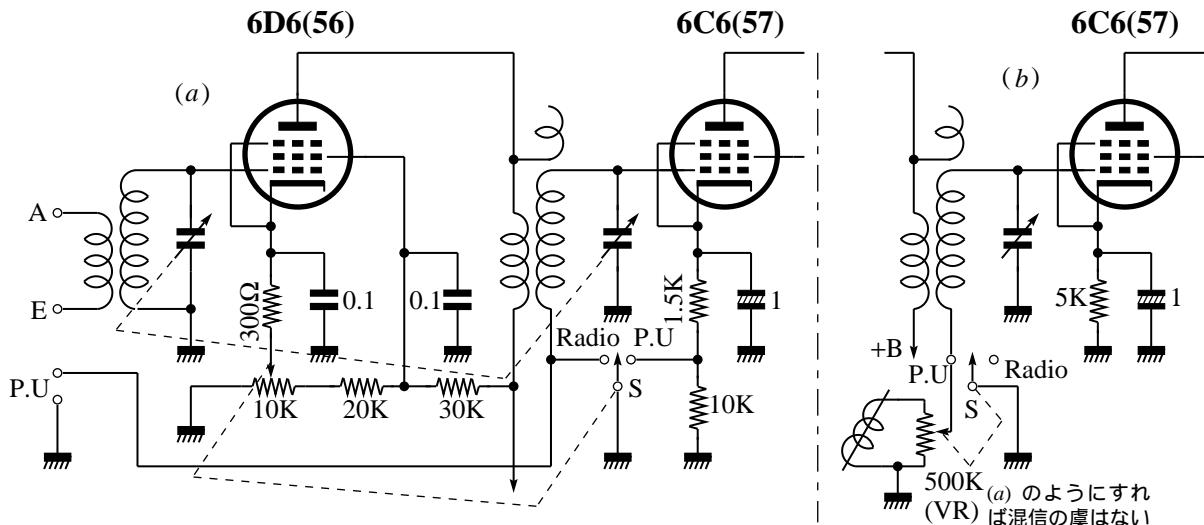


ラジオとピックアップの切替

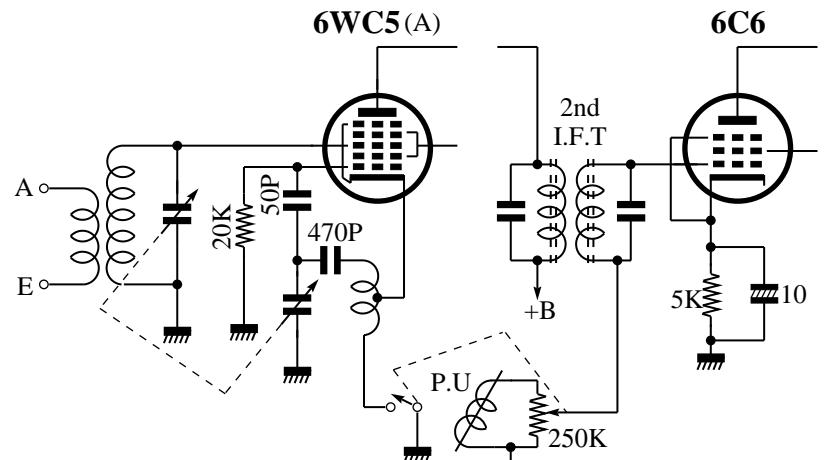


第1図

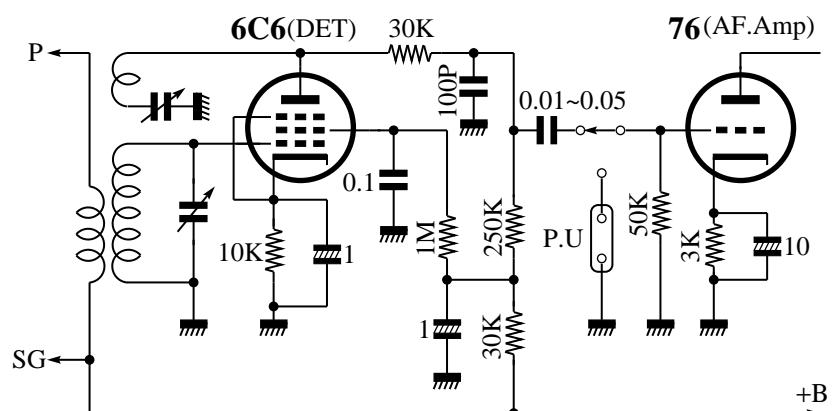
レコード演奏中にラジオが混入するものが
あります。名曲鑑賞とオツにスマシタ心中、お
だやかならぬものを感ずるのは誰しも。では
「どうしたら名曲を」堪能し得るようスイッチ
を設けるか……色々並べて見ますが中にアヤ
シゲなものも現れるか知れず実験の参考程度
に御覧下さい。

第1図は高一、高二級の最も簡単なセットに
適当と思われます。(a)はRF段のバリオーム
10Kを右にシボリ切ったときSはP.U.に接
がれバイアス(検波管)を変えて μ を下げてお
ります。なぜなら $E_p - I_g$ 特性の下部湾曲部に
おいて検波しバイアスを下げる直線部分では
入力に応じた増幅波形を得るためにあります。
もしバイアスを下げないとAF入力が加わ
れば出力波形は歪んで検波特性を悪くしま
す。したがって余程の大電力がアンテナに誘起され
ない限りラジオの混入は心配ありません。(b)
はバイアスを変えず単にP.U.回路のボリュー
ムがショートされるか否かで各々目的を達し
ています。このボリュームを(a)と同様に使用
したらよいのではないかと考えます。

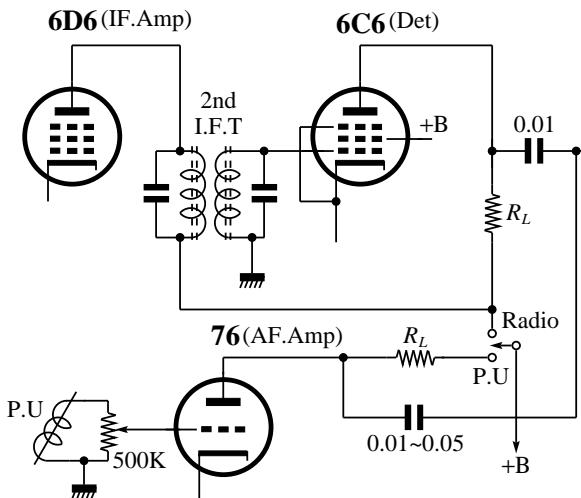
第2図はピクターで用いられている方法で
コンバーターのカソードを切ってレコード演
奏するようになっています。受信機を動せる
場合、ピックアップのボリュームがショートされ
(つまりIFTがアースされたとき)カソ
ードが接がれコンバーターは動作を始める。この他オールウェーブではIF段のカソードを切
るようにしてあります。



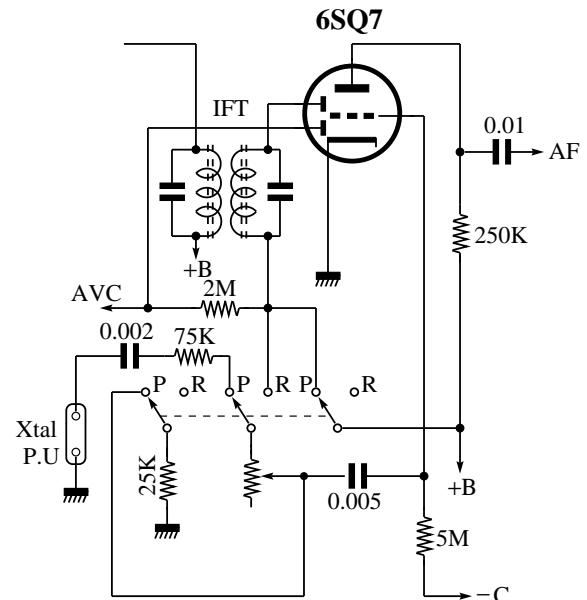
第2図



第3図



第4図



第5図

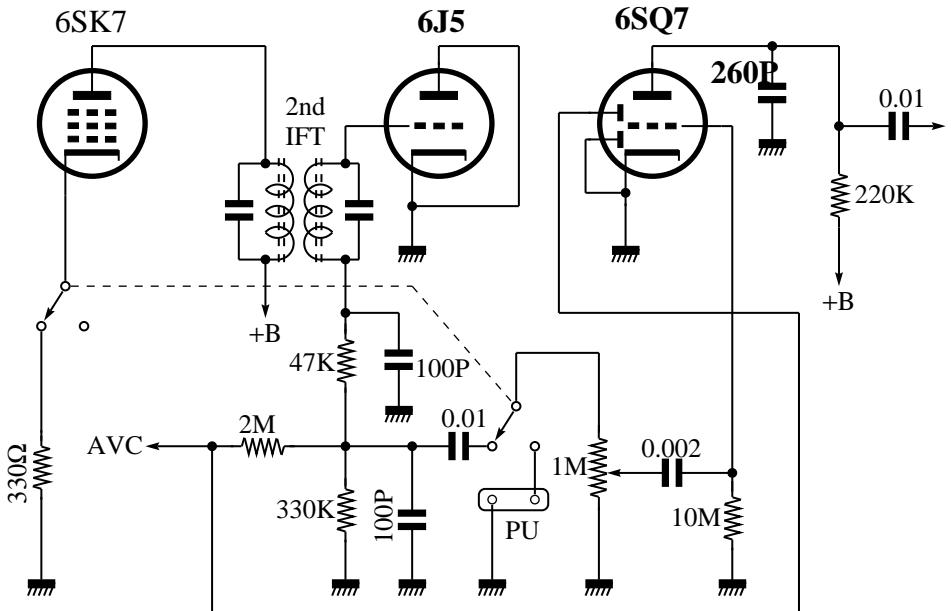
第3図は検波管とAF増幅管を各専用とするものでラジオ混入絶無と強調し難い。出来れば同時にラジオ部のB回路を切るべきであります。

第4図はP.U専用增幅管を設けB回路のみ接断し目的を達している簡単で確実な切替法ではあるが真空管1本損したような気が致します。

第5図は「新しい回路・珍しい回路」より抜萃したものでP.Uの時B電圧を整流2極へ、Rを通じてAVC2極管に与える。検波電圧をシートすると同時にRを通してあるからここに大部分の電圧降下を生じAVC電圧が変換管、IF増幅管に大きく加わるためこれらの増幅度を大きく減少しラジオは絶対聞こえないようにしてあります。

第6図はスチワート・ワーナーの207Aに採用されている方法で6J5を2極検波として6SQ7のダイオードで、6J5のAVC電圧を整流している。P.U切替は6SK7のカソードを同時に切ってラジオ混入の絶対ないようにしたものです。

以上の外、不二屋電機(元をタダセバ御菓子司)では、ピックアップのスタンドに押ボタン式のスイッチを設けてピックアップのアームをスタンドに置いたときIFT(2nd)を接ぎP.Uをショートしているのもある。



第6図

PDF化にあたって

本PDFは、

『無線と実験』1949年3月号

を元に作成したものである。

PDF化にあたって、旧漢字は新漢字に、仮名遣いは新仮名遣いに変更した。漢字の一部には振り仮名をつけた。

ラジオ関係の古典的な書籍及び雑誌のいくつかを

ラジオ温故知新(<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/index.html>)

に、

ラジオの回路図を

ラジオ回路図博物館 (<http://fomalhaut.web.infoseek.co.jp/radio/radio-circuit.html>)

に収録してある。参考にしてほしい。